

カテゴリ: 機材・ダイヤ、サービス全般

衛星「みちびき」を活用した新進入方式の運用を開始しました ～低高度での着陸可否判断により、離島などで就航率向上が期待されます～

日本エアコミューター(以下JAC)は、11月10日(金)からLPV(*1)進入方式による運用を開始しました。これにより、従来よりも低い高度まで降下して着陸可否の判断が可能となるため、悪天候による視界不良時に、就航率の向上および安全運航に寄与することが期待できます。



JAC就航路線におけるLPV進入可能空港

(例)屋久島空港 滑走路番号32の場合

従来の進入方式では、視界不良時に滑走路が視認できない場合、対地高度 約325m(1066ft)までしか進入できなかったが、LPV進入では約103m(338ft)まで進入可能となる。

LPV進入方式とは、衛星GPSとSBAS(*2)から送られる位置補正データを活用して、航空機が進入方向と降下角度のガイダンスを受けながら滑走路への進入を行う運航方式です。

今般、新たに屋久島空港、種子島空港、福岡空港においてLPV進入が可能となり、今後は他のJAC就航空港をはじめ全国で新進入方式が運用されることを期待しています。

これにより、特に滑走路へ誘導する地上からの電波設備を設置できない離島空港において、就航率向上などご利用されるお客さまの利便性をさらに高めていきたいと考えています。

JACは今後も地域の翼として、地域社会の課題と発展に貢献するべく、安定的な運航の実現に向けて、挑戦を続けてまいります。

(*1) LPV: Localizer Performance with Vertical guidanceの略

(*2) SBAS: Satellite-Based Augmentation Systemの略。(静止衛星型衛星航法補強システム)

GPS信号の誤差や異常を地上で監視し、誤差補正情報や異常情報を静止軌道衛星により航空機へ送信するシステム

以上